（別紙様式4）

令和7年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
履正社国際医療スポーツ専門学校	平成10年4月1日	池尾　忠思	〒　532-0024 （住所）　大阪市淀川区十三本町3-4-21 （電話）　06-6305-6592
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人　履正社	大正11年4月1日	釜谷　等	〒　532-0024 （住所）　大阪市淀川区十三本町3-4-21 （電話）　06-6353-6592

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ学科 （アスレティックトレーナーコース）	平成 7(1995)年度	－	平成29(2017)年度

学科の目的	本学科は教育基本法及び学校教育法ならびに関係諸法令に従い、文化・教養専門課程を設置し、その理論と実技を授け活力のある人材を育成し、社会環境の向上に寄与し、もって人類の福祉に貢献する人物の養成を目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	本学科は、スポーツ・健康産業において必要とされるアスレティックトレーナー、パーソナルトレーナー、フィットネスインストラクター、そして,バスケットボール・水泳etcの指導者を養成している。取得可能な資格は、日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナー、健康運動実践指導者、バスケットボール、水泳etcのコーチ資格です。

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,860 単位時間	1,350 単位時間	90 単位時間	240 単位時間	0 単位時間	180 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
280 人	76 人	0 人	0 %	4 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 35	人
■就職希望者数 (D)	: 26	人
■就職者数 (E)	: 23	人
■地元就職者数 (F)	16	人
■就職率 (E/D)	88	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	70	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	66	%
■進学者数	4	人

■その他

インターン人数4名（プロスポーツチーム3名、海外体育系大学トレーニングセンター1名）

（令和　　6 年度卒業者に関する令和７年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和6年度卒業生）

コンディショニング系ジム・フィットネスクラブ、整骨院、キッズ系体操教室、介護施設、教員、営業職、テニススクール、総合型地域スポーツクラブ、自治体

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：
※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：－　　受審年月：－　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　－

当該学科のホームページURL

http://www.riseisha.ac.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	1,860 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	210 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	210 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	210 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総単位数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した演習の単位数	単位
うち必修単位数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	9 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	6 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		16 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	9 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本学科の授業内容及びカリキュラム策定の基本方針において、本校に入学してくる半数以上の生徒は、高校で体育系の部活動を経験しており、その大半が部活動での負傷が原因で継続を断念したり、周囲で同様の事例を見聞したことのきっかけが動機になり、入学してくる。我が国の高校部活やクラブチームでは、国家免許を所有した専門的な治療家、トレーナーが少なく、資格を有さない者が未熟な処置、トレーニングで選手に影響を与える事は少なくない。現場からも専門家派遣の要請が多く、そのような社会の需要に応えるべく、企業等と連携し、特色的な授業内容とカリキュラムを策定する。具体的には、生徒が目指す高校部活動へトレーナーとして派遣している接骨院、 スポーツ整形クリニックでの、臨地研修や体験研修の実施、就職斡旋など、本人達が目指すべき姿を実際に観察させる。また、当該分野にて活躍活動をしている講師や実習先指導者、卒業生の勤務先院長などと、普段から連絡を密にし、情報の交換を行う。将来に向けて、スポーツ振興が活発になり、スポーツ外傷によるケガも増加すると見込んでいる。 スポーツ種目は年々、また月ごとに変化しているので、その患者にうまく対応できる、同じ種目経験者の派遣要請や、就職紹介などにも応え、今後増加する社会の変化や要請を教育に落とし込んでいく。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
学校組織図（文化教養専門課程）校務分掌の中に、独立した外部委員会として位置付けた。
カリキュラム編成大綱化が導入され以降、建学の理念の基づく学校の特色や方針を授業に反映させているが、教育課程編成委員会を独立した組織と定義し、今後は企業（スポーツ関連機関など）の声や意見を取り入れ、スポーツ産業の変革に適応できるよう、カリキュラムを編成していきたい。具体的にはスポーツ学科担当教員による週例会議でカリキュラム編成会議を実施し学科長会議を経て教育課程編成会議にて議論を行う。最終は校長・教頭会議で決裁される

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
西脇　雅人	大阪工業大学 一般社団法人日本体力医学会	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	②
梅原　哲朗	株式会社　Toughrit	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
和田　竜三郎	株式会社　西宮ストークス	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
池尾　忠思	履正社国際医療スポーツ専門学校　校長	内部委員	―
大江　信一郎	履正社国際医療スポーツ専門学校　副校長	内部委員	―
山口 宗明	履正社国際医療スポーツ専門学校　スポーツGM	内部委員	―
照屋 博康	履正社国際医療スポーツ専門学校　スポーツGM	内部委員	―
浅村　典正	履正社国際医療スポーツ専門学校　スポーツGM	内部委員	―
竹中　宏	履正社国際医療スポーツ専門学校　事務長	内部委員	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （5月、10月）

（開催日時（実績））
第1回　令和6年5月21日　18:00～
第2回　令和6年9月17日　18：00～

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
新入生に対し特に、専門的知識に興味を抱き継続できるように、アプリの開発や実施、また、使用率や問題の回答率の高いものを表彰する制度等を導入した。
また、退学者を抑制するための戦略の一つとして、早期に仕事に対するイメージを持たせるために、令和7年度の新カリキュラムより、スポーツ現場実習を3ヶ月前倒しして実施することとした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、スポーツ業界において必要とされる知識・技術に加え社会人としての礼儀作法の習得を目指した職業教育の実施を目的としている。スポーツトレーナー・パーソナルトレーナーとかかわりの深いトレーナー業界フィットネス業界、また競技系スポーツチームと連携し実践的な職業教育を行う。卒業後、各現場にて即戦力となる人材を養成するにあたり、授業開始前に担当教員と綿密に打ち合わせを行い、授業内容の決定だけでなく、履修学生の学修状況や性格、得意不得意などの学生情報を共有した後に授業を行っていただくようにしている。授業においては、専門的な知識の習得は勿論のこと、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の養成も行っている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携している企業の方より実際の現場で必要な知識・技術を伝授していただく。また、業界の現状を享受し必要なトレーニングプログラムやコーチングテクニックを実戦形式で身に付くように指導を受ける。学期末には企業の先生方より学習評価を受ける。担当教員と企業より派遣していただいた講師の先生および企業スタッフの方と綿密に打ち合わせを行う。授業実施期間中は、学生の熟達度や授業進捗状況の打ち合わせを行い、学生の熟達状況に応じて臨機応変に授業内容の変更も行う。

（3）具体的な連携の例

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
ファンクショナルトレーニング実習Ⅰ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ファンクショナルトレーニングの哲学・考え方を理解し、指導に活かせるようにする。また、実践を通してスキルを身につけ、CFSC Level1認定ライセンス取得を目指す。	株式会社ティップネス
ファンクショナルトレーニング実習Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ファンクショナルトレーニングの哲学・考え方を理解し、指導に活かせるようにする。また、実践を通してスキルを身につけ、TRX-STC認定ライセンス取得を目指す。	株式会社ブラボーグループ
ファンクショナルトレーニング実習Ⅲ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ファンクショナルトレーニングの本質や原理原則、スクリーニングからプログラミング、3Dエクササイズ等をグローバルで活用されているViPRなどを自ら学び実践し習得をしていく。	株式会社ブラボーグループライフフ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校が定めている、教員に対する研修に係る諸規定に準じ、業団（日本スポーツ協会など）が開催する講習会、学会、研修会に積極的に参加し、現場の応用技術や臨床知識を修得すると同時に、業界の活動や変化を俊敏に捉え、現場と教育が乖離しないように教育に反映させる。			
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専任教員ミーティング	連携企業等：	日本スポーツ協会
期間：	令和7年8月8日（金）	対象：	本校教員
内容	日本スポーツ協会の認定校として、日本スポーツ協会が主催する教員講習会に参加。アスレティックトレーナーを目指す学生への指導方法を学び、学生指導に活かすことを目的としている。（毎年継続して受講）		
研修名：	日本スポーツ整形外科学会2025	連携企業等：	日本スポーツ整形外科学会
期間：	令和7年9月12日～9月13日	対象：	日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー
内容	教育研修、特別講演などを聴講し、最近の知見を知り、学生指導時にその知識等を活用することを目的としている。		
研修名：	第13回日本アスレティックトレーニング学会学術大会	連携企業等：	日本アスレティックトレーニング学会
期間：	令和7年9月6日～7日	対象：	日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー
内容	教育研修、特別講演などを聴講し、最近の知見を知り、学生指導時にその知識等を活用することを目的としている。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	コーチデベロッパー研修会	連携企業等：	日本スポーツ協会
期間：	令和7年9月20日・21日、12月6日・7日	対象：	本校教員
内容	日本スポーツ協会免除適応コース認定校として、スポーツ指導者養成におけるファシリテーションの必要性、進め方を実戦形式で学ぶ講習である。本校専任教員が継続的に協会の講習を受講することで、学生の意見を引き出し、学生自身が考えて行動を起こせる学生指導を提供することを目的とする。		
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専任教員ミーティング	連携企業等：	日本スポーツ協会
期間：	令和8年8月	対象：	本校教員
内容	日本スポーツ協会の認定校として、日本スポーツ協会が主催する教員講習会に参加。アスレティックトレーナーを目指す学生への指導方法を学び、学生指導に活かすことを目的としている。（毎年継続して受講）		
研修名：	日本スポーツ整形外科学会2026	連携企業等：	日本スポーツ整形外科学会
期間：	令和8年8月27日～29日	対象：	日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー
内容	教育研修、特別講演などを聴講し、最近の知見を知り、学生指導時にその知識等を活用することを目的としている。		
研修名：	第14回日本アスレティックトレーニング学会学術大会	連携企業等：	日本アスレティックトレーニング学会
期間：	令和8年9月	対象：	日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー
内容	教育研修、特別講演などを聴講し、最近の知見を知り、学生指導時にその知識等を活用することを目的としている。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専任教員ミーティング	連携企業等：	日本スポーツ協会
期間：	令和8年8月	対象：	本校教員
内容	日本スポーツ協会の認定校として、日本スポーツ協会が主催する教員講習会に参加。アスレティックトレーナーを目指す学生への指導方法を学び、学生指導に活かすことを目的としている。（毎年継続して受講）		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校関係者としてトレーナー業界、医療関係者の企業様と共に学校関係者評価委員会を設置し当該専門科目における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営改善の参考とする。学校関係者評価は「私立学校専門学校等評価機構　専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した。自己点検・自己評価の結果を基に「専門学校における学校評価ガイドライン」に則り実施することを基本方針とする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	（1）教育理念・目標
（2）学校運営	（2）学校運営
（3）教育活動	（3）教育活動
（4）学修成果	（4）教育成果
（5）学生支援	（5）学生支援
（6）教育環境	（6）教育環境
（7）学生の受入れ募集	（7）学生の受入れ募集
（8）財務	（8）財務
（9）法令等の遵守	（9）法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	－
（11）国際交流	－

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

本委員会において、企業から参画された委員の意見は以下の内容であった。
医療とスポーツを融合した教育方針は理解できるが、職業実践教育においては即戦力が期待されているので、今後この部分の強化が期待される。また、職能教育のみならず、人格育成やスポーツ・医療に携わるにふさわしい人材教育も必要であると意見があった。
職業実践教育及び即戦力に対して、学外での実習において、十分な時間の確保及び質の向上に努めている。
人材育成においては、入学直後に新入生一泊研修制度を導入し、人格教育及び社会人たるにふさわしい研修を入学初期段階で実施している。
最後に委員の意見を学校全体に照らしてみると、これまで若年層を主として対象としていたスポーツの概念をシニア世代の予防運動や体操なども含め、高齢者の特徴や疾病事故の予防医学の観点を教育に反映し、今後は改善を進めて参りたい。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
安村　亮	ラックヘルスケア株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	業界委員
川上　晃司	スポーツインテリジェンス株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	企業委員
野柳　俊英	やなぎ整形外科クリニック	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	業界委員
中谷　功	なかたに鍼灸整骨院	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	業界委員
清行　康邦	公益社団法人　全日本鍼灸学会	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	学識有識者
萩原　嘉彦	ハギーコーポレーション	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	業界委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

URL:　https://www.riseisha.ac.jp/disclosure/
公表時期:　令和6年11月28日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

入学者の多くが、将来スポーツ関係に従事したいと考えており、実習概要や校外研修要項を作成し、情報提供として企業等の学校関係者に随時説明を行っている。

また、就職先や実習先の指導者には、入学者の動機や将来希望する専門分野を説明し、出来る範囲でそのような症例やケースに遭遇できる機会の確保を要請している。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校案内
（2）各学科等の教育	スポーツ学科
（3）教職員	先生紹介
（4）キャリア教育・実践的職業教育	体験型学習のススメ
（5）様々な教育活動・教育環境	十三キャンパス
（6）学生の生活支援	学生の一日、就職先・キャリアアップ
（7）学生納付金・修学支援	納付金のご案内
（8）学校の財務	情報公開（財務）
（9）学校評価	情報公開（学校関係者評価）
（10）国際連携の状況	–
（11）その他	–

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

URL:　http://www.riseisha.ac.jp/

公表時期:　令和7年7月31日

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程 スポーツ学科(アスレティックトレーナーコース)）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			スポーツ科学	スポーツ指導者にとって必要不可欠なスポーツ科学（心理学、栄養学）に関する内容について学習していく。	1	30	2	○			○		○		
2	○			トレーニング論	トレーニングの原理・原則を基本にトレーニングプログラムの基礎を学ぶことを目的とする。また、プログラムを作成する上で必要な理論や実際についても知識の定着を図り、実践的にトレーニングプログラムを提供できる力を養う。	1	30	2	○			○		○		
3	○			スポーツコーチング論Ⅰ	公認スポーツ指導者養成カリキュラムの内容を中心に講義を行う。 公認スポーツ指導者に最も必要とされる基本的な思考、態度、行動や様々な特徴のある指導現場や環境において必要となる要素を考え、担当教員や受講生同士の意見交換・共同作業を通して、コーチングの原点やプロセス、コーチングの計画立案法、効果的なコーチング実践法に関する知識やスキルの獲得及び理論の理解を深めることを目的とする。	1	30	2	○			○			○	
4	○			スポーツコーチング論Ⅱ	コーチングをする上で知っておかなければならないスポーツの本質・制度・環境についてを扱う。特に、最近のスポーツチームや組織において話題となっているガバナンス・ハラスメント・リスクマネジメントということがメイントピックとなる。講義では、これまでの事例・ニュースを取り上げながら、その解説を行う。	1	30	2	○			○			○	
5	○			スポーツ医学	現場で必要となるスポーツ医学に関する知識について理解を深める。 解剖学や救急処置・コンディショニングの知識とリンクさせながら現場で活用できる知識を身につける。	1	30	2	○			○		○		
6	○			スポーツマネジメント論	社会の中で求められるコミュニケーションに必要なマネジメント力をスポーツの分野ではどのように関連づけられるか、またどのようにスポーツ現場で応用できるか、様々な角度からスポーツを捉え、そこに関わる指導者としての基本的な知識を身につけて多角的に考察と理解をする。	1	30	2	○			○			○	
7	○			アスレティックトレーナー概論	JSPO-ATの役割・業務と専門性や、業務を遂行する上で必要となる多 様な素養の位置づけを理解し、持続的に学び関係職種との連携を推進するための 知識と態度の習得をねらいとする。	1	30	2	○			○		○		

	（文化・教養専門課程 スポーツ学科（アスレティックトレーナーコース））																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
8	○			運動生理学	動生理学の基礎になる学問は生理学である。この学問は「運動すると身体の生理的機能にどの様な反応が生じるのか。」また「その反応にどのような意味があるのか。」を学ぶ学問でもある。つまり、実施した運動により、体力・運動能力の向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要な運動生理学の基礎知識を理解することができる。したがって本講義では、安全で有効な運動指導をするための知識を得て、運動による身体に及ぼす影響を理解する事を目的とする。	1	30	2	○			○		○		
9	○			トレーニング科学	動作改善指導に必要な着眼点と考え方を学び、現場での応用力を身に付ける。スポーツ障害発生の予防、技術・成績の向上に不可欠な様々なトレーニング効果を生む指導法を学ぶ。	2	30	2	○			○			○	
10	○			機能解剖学Ⅰ	骨の部位や名称、その骨に関わる関節の構造や働きを理解し、その関節を動かす筋の名称、起始（付着）・停止や神経支配について学び、スポーツ動作のメカニズムを理解する際の基礎知識の習得をねらいとする。	1	60	4	○			○		○		
11	○			機能解剖学Ⅱ	機能解剖学Ⅰをベースにより詳細にキネシオロジーを学ぶ。	1	30	2	○			○		○		
12	○			管理予防論Ⅰ	JSPO-ATの役割における「安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防」の位置づけを理解した上で、科学的根拠に基づいた予防対応を組織的に計画し実践するために必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。	2	30	2	○			○		○		
13	○			管理予防論Ⅱ	JSPO-ATの役割における「安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防」の位置づけを理解した上で、科学的根拠に基づいた予防対応を組織的に計画し実践するために必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。	2	30	2	○			○		○		
14	○			テーピングⅠ	各部位、完成度の高いテーピングを習得する。 テーピング１本１本の意味を理解する。	1	30	2			○	○		○		
15	○			コンディショニングⅠ	対象者のパフォーマンス発揮に必要な要因を分析し、目標を達成するために現状と目標値の差を最小化するための支援を安全かつ効果的に行うための知識、技能、態度を習得することをねらいとする。	1	30	2	○	△	△	○			○	
16	○			コンディショニングⅡ	各種体力・運動能力向上のためのコンディショニング計画立案と実践に必要な知識について理解し、安全で効果的に実践できるようになることをねらいとする。	1	30	2	△	△	○	○			○	
17	○			コンディショニングⅢ	各種体力・運動能力向上のためのコンディショニング計画を立案し、安全で効果的なメニューを実践することをねらいとする。	2	30	2	△	△	○	○			○	

	（文化・教養専門課程 スポーツ学科（アスレティックトレーナーコース））																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
18	○			リコンディショニングⅠ	JSPO-ATの役割における「リコンディショニング」の位置づけを理解したうえで、これらに必要な知識を習得することをねらいとする.	1	30	2	○			○			○	
19	○			リコンディショニングⅡ	JSPO-ATの役割における「リコンディショニング」の位置づけを理解したうえで、これらに必要な知識に加え、態度や技能を習得することをねらいとする.	2	30	2		○		○		○		
20	○			リコンディショニングⅢ	JSPO-ATの役割における「リコンディショニング」の位置づけを理解したうえで、これらの実践能力を習得することをねらいとする.	2	30	2		○		○		○		
21	○			救急対応論Ⅰ	JSPO-ATの役割における「救急対応」の位置づけを理解したうえで、医療資格保持者に引き継ぐための現場で出来る最高レベルの救急対応ができる実践的な知識、態度や技術を習得することをねらいとする。 合わせて、スポーツ活動現場における救急対応の特性と意義を理解することをねらいとする。	1	30	2	○			○		○		
22	○			救急対応論Ⅱ	JSPO-ATの役割における「救急対応」の位置づけを理解したうえで、医療資格保持者に引き継ぐための現場で出来る最高レベルの救急対応ができる実践的な知識、態度や技術を習得することをねらいとする。 合わせて、スポーツ活動現場における救急対応の特性と意義を理解することをねらいとする。	2	30	2	○			○		○		
23	○			検査測定評価法Ⅰ	JSPO-ATに必要とされる検査・測定・評価についてその目的と意義を学び、具体的な評価プロセス理解のもと、実践できる能力の習得をねらいとする。	1	30	2			○	○		○		
24	○			検査測定評価法Ⅱ	JSPO-ATに必要とされる検査・測定・評価についてその目的と意義を学び、具体的な評価プロセス理解のもと、実践できる能力の習得をねらいとする。	2	30	2			○	○		○		
25	○			スポーツ整形外科学Ⅰ	スポーツ活動中に発症しうる外傷・障害、更には重篤な外傷や疾病に関する基礎知識について理解する。また、これらの外傷・障害・疾病からのスポーツへの復帰プロセスで留意すべき点を理解し、関連医療職とのコミュニケーションを円滑にすすめるための知識と態度の習得をねらいとする。	1	30	2	○			○			○	
26	○			スポーツ整形外科学Ⅱ	スポーツ活動中に発症しうる外傷・障害、更には重篤な外傷や疾病に関する基礎知識について理解する。また、これらの外傷・障害・疾病からのスポーツへの復帰プロセスで留意すべき点を理解し、関連医療職とのコミュニケーションを円滑にすすめるための知識と態度の習得をねらいとする。	2	30	2	○			○			○	

	（文化・教養専門課程 スポーツ学科(アスレティックトレーナーコース)）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
27	○			スポーツ内科学	スポーツ活動中に発症しうる内科疾患、更には重篤な疾病に関する基礎知識について理解する。また、これらの疾病からのスポーツへの復帰プロセスで留意すべき点を理解し、関連医療職とのコミュニケーションを円滑にすすめるための知識と態度の習得をねらいとする。	2	30	2	○			○			○	
28	○			バイオメカニクス	体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要なバイオメカニクスの基礎知識を理解することをねらいとする。	2	30	2	○			○			○	
29	○			スポーツ栄養学	栄養学の基礎知識をスポーツの現場で応用できるよう学習する。	1	30	2	○			○		○		
30	○			生理学	運動生理学へ繋がる様に、生理学の基礎知識を理解することをねらいとする。	1	30	2	○			○			○	
31	○			触診演習	アスレティックトレーナーにおいて、評価、アプローチを行う上で触診技術を習得することは必要不可欠である。 骨・筋・靭帯・神経等の解剖学の知識を整理し、それらの触診技術の習得を目指す。 「触診Ⅰ」においては触診の基本となる”骨指標”および”腱”の触診実技を中心に進める。	1	30	2			○	○		○		
32	○			トリートメント	JSO-ATとして、関連職種である理学療法士、鍼灸師、柔道整復師の業務内容を知ることを狙いとする。	2	30	2			○	○		○		
33	○			トレーニング実技Ⅰ	身体の機能・筋肉や関節の構造等からトレーニングの基本を習得しウェイトトレーニングのフォーム、重さ、回数、セット数、スピードなどの変数の違い、システムによる効果の違いや特徴を主に学びます。	1	30	2			○	○			○	
34	○			トレーニング実技Ⅱ	身体の機能・筋肉や関節の構造等からトレーニングの基本を習得し、ウェイトトレーニングのフォーム、重さ、回数、セット数、スピードなどの変数の違い、システムによる効果の違いや特徴を主に学びます。	1	30	2			○	○			○	
35	○			AT実技対策Ⅰ	JSO-ATとして、救急対応、コンディショニング、リコンディション等の技能を向上させることをねらいとする。	2	30	2		○		○		○		
36	○			AT実技対策Ⅱ	JSO-ATとして、救急対応、コンディショニング、リコンディション等の技能を向上させることをねらいとする。	2	30	2		○		○		○		
37	○			AT理論対策Ⅰ	JSO-ATとして、総合的な知識を向上させることをねらいとする。	2	30	2	○			○		○		

	（文化・教養専門課程 スポーツ学科（アスレティックトレーナーコース））																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
38	○			AT理論対策Ⅱ	JSO-ATとして、総合的な知識を向上させることをねらいとする。	2	30	2	○			○		○		
39	○			AT理論対策Ⅲ　冬期	JSO-ATとして、総合的な知識を向上させることをねらいとする。	2	30	2	○			○		○		
40		○		トレーニング実習（UP・SAQ）	①フィールドトレーニングに関する全般の知識を身につける。 ②学生がお互いに指導するという機会を増やし実践することで、実際の指導現場に立った際に求められる指導技術の向上を図る。 ③指導時に適切なデモンストレーションを見せられる能力の向上を図る。	1	30	2			○	○		○		
41		○		パフォーマンス測定法	JSPO-ATに必要とされる検査・測定・評価についてその目的と意義を学び、具体的な評価プロセス理解のもと、実践できる能力の習得をねらいとする。	1	30	2			○	○			○	
42		○		AT演習	目標設定や発表演習を通し、自己理解・自己開示・他者理解を促し、個人の人間的成長や周りとの良好な関係づくりを行う。	1	30	2		○		○		○		
43		○		テーピングⅡ	テーピングⅠに続いて、身体各所のテーピング技術を身につける。 テープ１本１本に役割があることを理解しながら、テーピングを施す。	1	30	2			○	○		○		
44		○		トレーニング実技Ⅲ	身体機能の向上とクライアントの多様化する目的を達成させるために、必要なさまざまなトレーニングの実際と指導法を学習します。	2	30	2			○	○			○	
45		○		トレーニング実技Ⅳ	身体機能の向上とクライアントの多様化する目的を達成させるために、必要なさまざまなトレーニングの実際と指導法を学習します。	2	30	2			○	○			○	
46		○		トレーニング指導者基礎論Ⅰ（JATI）	トレーニング指導を行う際には、正しい知識・技術をもってして対象者に接する必要がある。 本講義では基本的なトレーニングに関する基礎知識の習得とともに、実践的に指導が行える力を身につけることを目的とする。	1	30	2	○			○		○		
47		○		トレーニング指導者基礎論Ⅱ	トレーニング指導を行う際には、正しい知識・技能をもって対象者に接する必要がある。 本講義では、基本的なトレーニングに関する知識の習得とともに、実践的に指導できる力を身につけることを目的とする。	1	30	2	○			○		○		

	（文化・教養専門課程 スポーツ学科（アスレティックトレーナーコース））															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
48		○		ファンクショナルトレーニング実習Ⅰ	・ﾌｧﾝｸｼｮﾅﾙなｽﾄﾚﾝｸﾞｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞにおけるｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞな考え方 ・ﾌｧﾝｸｼｮﾅﾙなｽﾄﾚﾝｸﾞｽﾄﾚｰﾆﾝｸにうおける実際のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ方法 ・ﾏｲｸ・ﾎﾞｲﾙ氏が米国MBSCで実践しているﾌｨﾛｿﾌｨｰ（哲学・考え方）が体現化されたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ・どのように声を掛けるのか、どう対処すべきか等現場で重要なｺｰﾁﾝｸﾞ技術の習得 ・筆記、実技合格後「CFSC（ｻｰﾃｨﾌｧｲﾄﾞﾌｧﾝｸｼｮﾅﾙｽﾄﾚﾝｸﾞｽｺｰﾁ）Level１ﾗｲｾﾝｽを取得	1	30	2			○	○			○	○
49	○			ファンクショナルトレーニング実習Ⅱ	TRXサスペンショントレーニングの基本概念を理解し、自身のトレーニングおよび指導に使える技能を習得する。加えて、サンドバッグやメディシンボールといったツールも用いながら、「動き」を良くするための最適解を探し、その考え方をベースに、サーキットトレーニングを作成、指導する方法を学ぶ。	2	30	2			○	○			○	○
50		○		ファンクショナルトレーニング実習Ⅲ	指導者として、ファンクショナルトレーニングの本質や原理原則、スクリーニングからプログラミング、3Dエクササイズ等をグローバルで活用されているViPRというファンクショナルトレーニングツールを通して、自ら学び実践し習得をしていく。	2	30	2			○	○			○	○
51		○		トレーニング指導者論	トレーニング指導者認定試験模擬問題集を参考に試験対策をおこなう。	2	30	2			○	○		○		
52		○		スポーツ実技Ⅰ	競技コース併学学生対象で、各競技の実践を行い、競技力を養うことをねらいとする。	1	60	4			○	○		○		
53		○		スポーツ実技Ⅱ	競技コース併学学生対象で、各競技の実践を行い、競技力を養うことをねらいとする。	2	60	4			○	○		○		
54		○		スポーツ実技Ⅲ	競技コース併学学生対象で、各競技の実践を行い、競技力を養うことをねらいとする。	2	60	4			○	○		○		
55		○		トレーニング英語Ⅰ	外国語学科併学学生対象で、プレーヤーにJSPO-ATが関わる全ての場面に必要な英会話を学習することをねらいとする。	1	60	4			○	○		○		
56		○		トレーニング英語Ⅱ	外国語学科併学学生対象で、プレーヤーにJSPO-ATが関わる全ての場面に必要な英会話を学習することをねらいとする。	2	60	4			○	○		○		
57		○		トレーニング英語Ⅲ	外国語学科併学学生対象で、プレーヤーにJSPO-ATが関わる全ての場面に必要な英会話を学習することをねらいとする。	2	60	4			○	○		○		
58	○			AT実習Ⅰ	JSPO-ATがどのような役割を担い、どのような能力が必要かを説明できる。	1	30	2			○		○		○	

（文化・教養専門課程 スポーツ学科（アスレティックトレーナーコース））

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
59	○			AT実習Ⅱ	各自、定められた実習現場にて、その現場の状況に応じたAT業務の見学・体験を通して以下の内容を出来るだけ実施する。	1	60	4			○		○		○	
60	○			AT実習Ⅲ	各自、定められた実習現場にて、その現場の状況に応じたAT業務の見学・体験を通して以下の内容を出来るだけ実施する。	2	60	4			○		○		○	
61	○			AT実習Ⅳ	各自、定められた実習現場にて、その現場の状況に応じたAT業務の見学・体験を通して以下の内容を出来るだけ実施する。	2	30	2			○		○		○	
62		○		東京トレーナー研修	日本の第一線で活躍されてる講師陣をお招きして、普段得ることのできない知識、経験をし、自分の将来の方向性を考えてもらうことをねらいとする。	2	60	4			○		○		○	○
63		○		スポーツ現場研修Ⅰ	合宿や大会期間中のチームに帯同し、AT業務の見学・体験を通してAT業務を実施する	1	30	2			○		○		○	
64		○		スポーツ現場研修Ⅱ	合宿や大会期間中のチームに帯同し、AT業務の見学・体験を通してAT業務を実施する	2	30	2			○		○		○	
合計					64 科目			1860 単位時間								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	規定の出席率をみたし、指定された単位数を修得し、卒業判定会議で審査し、校長が認定したものとする。	1学年の学期区分	2 期
履修方法：	学生は、学則に定める教育課程の所定の科目を履修し、所定の単位を修得しなければ、進級もしくは卒業できない。	1学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。